



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月14日

上場会社名 北日本紡績株式会社 上場取引所 東
コード番号 3409 URL <http://www.ktbo.co.jp>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 粕谷 俊昭
問合せ先責任者（役職名） 取締役（氏名） 篠原 顕二郎（TEL）076(277)7530
半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する中間純利益 | |
|-------------|-----|------|------|---|------|---|-----------------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2025年3月期中間期 | 768 | 22.3 | △35 | — | △38 | — | △40 | — |
| 2024年3月期中間期 | 628 | 13.9 | △14 | — | 2 | — | 1 | — |

（注）包括利益 2025年3月期中間期 △35百万円（—%） 2024年3月期中間期 6百万円（—%）

| | 1株当たり 中間純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益 |
|-------------|----------------|---------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2025年3月期中間期 | △1.97 | — |
| 2024年3月期中間期 | 0.05 | 0.05 |

（注）2025年3月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、1株当たり中間純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（2）連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 |
|-------------|-------|-----|--------|
| | 百万円 | 百万円 | % |
| 2025年3月期中間期 | 1,918 | 975 | 50.8 |
| 2024年3月期 | 1,857 | 899 | 48.3 |

（参考）自己資本 2025年3月期中間期 975百万円 2024年3月期 898百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|--------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2024年3月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 2025年3月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 2025年3月期（予想） | — | — | — | 0.00 | 0.00 |

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | 1株当たり 当期純利益 |
|----|-------|-------|------|---|------|---|-----------------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | 円 銭 |
| 通期 | 1,462 | 11.85 | △15 | — | △6 | — | △12 | △0.60 |

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社(社名) — 、除外 一社(社名) —

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

| | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 2025年3月期中間期 | 21,481,494株 | 2024年3月期 | 20,072,694株 |
| 2025年3月期中間期 | 244,232株 | 2024年3月期 | 244,232株 |
| 2025年3月期中間期 | 20,496,015株 | 2024年3月期中間期 | 19,331,152株 |

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記予測に関する事項は、添付資料4ページ「業績予測などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|----------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 財政状態に関する説明 | 4 |
| (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 4 |
| 2. 中間連結財務諸表及び主な注記 | 5 |
| (1) 中間連結貸借対照表 | 5 |
| (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 | 7 |
| 中間連結損益計算書 | 7 |
| 中間連結会計期間 | 7 |
| 中間連結包括利益計算書 | 8 |
| 中間連結会計期間 | 8 |
| (3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書 | 9 |
| (4) 中間連結財務諸表に関する注記事項 | 10 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 10 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 10 |
| (会計方針の変更) | 10 |
| (中間連結キャッシュ・フロー計算書関係) | 10 |
| (セグメント情報等の注記) | 11 |
| 3. その他 | 13 |
| 継続企業の前提に関する重要事象等 | 13 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当中間連結会計期間の末日において当社が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当中間連結会計期間(2024年4月1日から2024年9月30日)における世界経済は、長引く国際情勢の緊迫化や資源価格高騰等、油断を許さない状況が続きました。また、当社が取引先を有する中国では、設備投資需要の停滞や消費回復の遅れが継続し、依然として不安定な経済要因が存在しております。さらに、世界規模で進む気候変動問題に対しては、各国での脱炭素化社会の実現に向けた需要がますます拡大していく中、各企業におけるTCFDへの関心の高まりを受け、自動車業界やプラスチック業界への影響が注視されます

我が国経済においては、企業の設備投資の持ち直しや、雇用・所得環境の改善とインバウンド需要拡大による消費回復を受け、景気は緩やかな回復傾向にある一方、エネルギーコストや輸送コストの上昇、為替相場の急変動等、継続して様々な経営課題が取り巻いております。

このような環境下、当社グループでは2024年6月に、2025年3月期から2027年3月期に係る新中期経営計画を公表いたしました。本中期経営計画では“未来の環境に貢献します”を長期ビジョンとして掲げ、今後はこれまでの多角化後の全事業の黒字化定着に重点を置きながら、コアとなる新規事業を推進し、「環境」「衛生」「高機能」の3つのソリューションを柱に持続可能な社会に貢献してまいります。

以上の結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高768,658千円(前年同期比22.3%増)、営業損失35,309千円(前年同期は営業損失14,967千円)、経常損失38,888千円(前年同期は経常利益2,417千円)、親会社株主に帰属する中間純損失40,422千円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純利益1,009千円)となりました。

当社個別決算につきましては、直前中間会計期間との比較で売上高が約2割伸長し営業損失が改善した一方で、為替の急変動により為替差損を計上した影響から経常損失は直前中間会計期間と同水準の結果となりました。

| 回次 | | 第101期 下期中間会計期間 | 第102期 上期中間会計期間 | 前年同四半期比較 |
|-------------------|------|------------------------------|-----------------------------|----------------------|
| 会計期間 | | 自 2023年10月1日 至 2024年3月31日 | 自 2024年4月1日 至 2024年9月30日 | |
| 売上高 | (千円) | 557,351 | 664,407 | +107,056 (+19.2%) |
| 営業損失(△) | (千円) | △36,388 | △31,605 | — |
| 経常利益又は 経常損失(△) | (千円) | △34,280 | △34,446 | — |

セグメント別の業績は次のとおりであります。

なお、各セグメントの営業損失は、各事業に配分していない全社費用70,976千円を配分する前の金額であります。

(紡績事業)

当中間連結会計期間における当該事業の状況につきましては、前年同期と比較して生産数量は微減しているものの、生産銘柄の入れ替えにより平均単価が上昇したことで、売上高は増加しております。

主力のアラミド繊維製品においては、資材用途向けが海外他社との競合により受注減の傾向にあることから、需要が堅調かつ高単価な防護衣料用途向けをはじめとした官需用増産への転換を進め、生産量は前年同期(2023年4月～2023年9月)より2.8%増の240.3tとなりました。

一方で、それ以外の紡績糸については、主に販売先の生産状況停滞による影響から前年同期より生産量が減少し、高級インナー向け紡績糸は26.5t、ポリエステル等の他素材は28.1tに留まりました。

この結果、紡績事業の当中間連結会計期間の業績は、売上高201,049千円(前年同期比3.6%増)、営業利益7,394千円(前年同期比36.2%減)となりました。

(テキスタイル事業)

当中間連結会計期間における販売状況につきましては、前連結事業年度から引き続き中東及び東アジア各マーケットにおけるコロナ禍からの回復が順調であり、受注状況は好調に推移した結果、大きく増収となりました。

出荷状況につきましては、委託加工先のスペース及び人手不足との兼ね合いによる染色作業や梱包作業の遅れへの懸念があったものの、成約済み契約の消化に注力し、足元における出荷は順調に進んでおります。

利益状況につきましても、国内仕入と海外販売に対する円安が寄与し、前年同期との比較で大幅な増益となりました。今後は、マーケットの状況変化や各経費の高騰に伴う委託加工賃の値上げ交渉等、先行き不透明な課題について慎重に判断しながら進めてまいります。

この結果、テキスタイル事業の当中間連結会計期間の業績は、売上高393,504千円(前年同期比52.4%増)、営業利益43,952千円(前年同期比98.6%増)となりました。

(ヘルスケア事業)

当中間連結会計期間における当該事業の状況につきましては、子会社である中部薬品工業の販売状況は順調に推移しており、特に「中薬たんきりのど飴」は新規にて大手ドラッグストアへ定番導入され売上が継続的に伸ばしております。また、新商品のウエハースサプリは、大手販売店薬剤売場での導入が進み、当初計画以上の売上が達成しております。一方、既存商品は大手ドラッグストアからの返品が発生しており、当中間連結会計期間における営業損益については、ほぼ予算通りの結果となりました。

当連結事業年度の見込みにつきましては、のど飴関連を中心に新商品が加わり売上・営業損益共に前事業年度を上回ることが予想されます。2024年中には、初めての「機能性表示食品」として新製品(ダイエットフルーツティー)をリリースする予定です。さらに、新たな商材となる防犯防災セキュリティ管理システムの販売につきましては、2024年8月下旬より本格的に営業を開始しており、販売状況は順調に推移しております。

この結果、ヘルスケア事業の当中間連結会計期間の業績は、売上高65,542千円(前年同期比5.8%増)、営業損失1,826千円(前年同期は3,935千円の営業利益)となりました。

(リサイクル事業)

当中間連結会計期間における当該事業の業績につきましては、国内を中心にリサイクル市場の需要動向は回復傾向にあり、出荷数量は順調に推移しておりますが、一時的な機械トラブルによる生産数量の低下がありました。

この結果、リサイクル事業の当中間連結会計期間の業績は、売上高108,562千円(前年同期比5.1%減)、営業損失13,752千円(前年同期は10,729千円の営業利益)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

総資産は前連結会計年度末より60,876千円増加し1,918,345千円となりました。これは主に、新株予約権の行使による払込等により現金及び預金が63,540千円増加し279,643千円になった一方で、当中間連結会計期間末日での出荷未了により商品及び製品が12,270千円増加し140,894千円に、前払済みの原材料および商材が入荷したことで前渡金が19,126千円減少し26,648千円になった影響であります。

(負債)

負債は前連結会計年度末より15,224千円減少し943,227千円となりました。これは主に、借入金返済と新規借入契約により、1年内返済を含む長期借入金が3,476千円減少し107,225千円に、諸税金の納付により未払法人税等が27,188千円減少し8,296千円に、震災による消費税の中間納付猶予手続により未払消費税等が17,754千円増加し31,589千円になった影響であります。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末より76,101千円増加し975,118千円となりました。これは主に、新株予約権の行使により資本金が56,020千円増加し1,279,468千円に、資本準備金が56,020千円増加し578,063千円に、親会社株主に帰属する中間純損失を計上したことにより、利益剰余金が40,422千円減少し△1,313,770千円になった影響であります。

(キャッシュ・フローの状況)

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、279,643千円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動による資金は37,408千円の減少(前中間連結会計期間は26,579千円の減少)となりました。これは主に、税金等調整前中間純損失△38,348千円を計上した一方で、棚卸資産の増加△12,559千円、前渡金の減少19,126千円、未払消費税等の増加17,754千円があったことに加え、法人税の支払△24,664千円があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動による資金は4,341千円の減少(前中間連結会計期間は4,124千円の減少)となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出△4,575千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動による資金は107,654千円の増加(前中間連結会計期間は58,617千円の減少)となりました。これは主に、新株予約権の行使による収入111,295千円があったことに加え、長期借入れによる収入10,000千円と長期借入金の返済による支出△13,116千円があったことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績予想については2024年5月14日に公表いたしました業績予想からの変更はありません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (2024年3月31日) | 当中間連結会計期間 (2024年9月30日) |
|---------------|-------------------------|---------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 216,102 | 279,643 |
| 受取手形及び売掛金 | 189,510 | 190,685 |
| 商品及び製品 | 128,624 | 140,894 |
| 仕掛品 | 21,321 | 22,148 |
| 原材料及び貯蔵品 | 11,593 | 11,055 |
| その他 | 52,822 | 32,398 |
| 貸倒引当金 | △2,051 | △2,051 |
| 流動資産合計 | 617,923 | 674,774 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物(純額) | 29,563 | 27,975 |
| 機械装置及び運搬具(純額) | 51,882 | 49,935 |
| 土地 | 964,113 | 964,113 |
| リース資産(純額) | 1,999 | 1,647 |
| 建設仮勘定 | 9,338 | 9,338 |
| その他(純額) | 4,011 | 4,226 |
| 有形固定資産合計 | 1,060,909 | 1,057,236 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 432 | 668 |
| リース資産 | 0 | 0 |
| 電話加入権 | 97 | 97 |
| 無形固定資産合計 | 530 | 766 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 145,436 | 152,954 |
| 敷金及び保証金 | 31,810 | 31,830 |
| その他 | 859 | 782 |
| 投資その他の資産合計 | 178,106 | 185,567 |
| 固定資産合計 | 1,239,545 | 1,243,570 |
| 資産合計 | 1,857,469 | 1,918,345 |

(単位:千円)

| | 前連結会計年度 (2024年3月31日) | 当中間連結会計期間 (2024年9月30日) |
|---------------|-------------------------|---------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 61,212 | 58,285 |
| 短期借入金 | 431,500 | 431,500 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 25,856 | 26,168 |
| リース債務 | 1,048 | 1,048 |
| 未払消費税等 | 13,835 | 31,589 |
| 未払法人税等 | 35,484 | 8,296 |
| 賞与引当金 | 8,625 | 9,924 |
| その他 | 56,972 | 56,059 |
| 流動負債合計 | 634,534 | 622,871 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 84,875 | 81,087 |
| リース債務 | 1,994 | 1,470 |
| 繰延税金負債 | 8,699 | 10,012 |
| 再評価に係る繰延税金負債 | 202,560 | 202,560 |
| 退職給付に係る負債 | 13,140 | 12,577 |
| その他 | 12,648 | 12,648 |
| 固定負債合計 | 323,917 | 320,355 |
| 負債合計 | 958,452 | 943,227 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 1,223,447 | 1,279,468 |
| 資本剰余金 | 522,042 | 578,063 |
| 利益剰余金 | △1,273,348 | △1,313,770 |
| 自己株式 | △32,863 | △32,863 |
| 株主資本合計 | 439,278 | 510,898 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 15,413 | 20,642 |
| 土地再評価差額金 | 443,577 | 443,577 |
| その他の包括利益累計額合計 | 458,991 | 464,219 |
| 新株予約権 | 746 | — |
| 純資産合計 | 899,016 | 975,118 |
| 負債純資産合計 | 1,857,469 | 1,918,345 |

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

| | 前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) | 当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日) |
|---|--|--|
| 売上高 | 628,412 | 768,658 |
| 売上原価 | 519,647 | 667,782 |
| 売上総利益 | 108,764 | 100,875 |
| 販売費及び一般管理費 | | |
| 役員報酬 | 11,280 | 12,330 |
| 給料及び手当 | 29,901 | 28,019 |
| 賞与引当金繰入額 | 2,481 | 2,842 |
| 支払報酬 | 10,249 | 13,640 |
| その他 | 69,819 | 79,353 |
| 販売費及び一般管理費合計 | 123,732 | 136,185 |
| 営業損失(△) | △14,967 | △35,309 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 14 | 37 |
| 受取配当金 | 3,803 | 1,829 |
| 不動産賃貸料 | 2,680 | 2,810 |
| 為替差益 | 10,756 | — |
| 補助金収入 | 7,578 | — |
| その他 | 379 | 2,007 |
| 営業外収益合計 | 25,211 | 6,685 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 5,427 | 5,236 |
| 為替差損 | — | 4,080 |
| 雑損失 | 2,057 | 303 |
| その他 | 342 | 644 |
| 営業外費用合計 | 7,826 | 10,264 |
| 経常利益又は経常損失(△) | 2,417 | △38,888 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | — | 539 |
| 新株予約権戻入益 | 1,654 | — |
| 特別利益合計 | 1,654 | 539 |
| 税金等調整前中間純利益 又は税金等調整前中間純損失(△) | 4,071 | △38,348 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 3,050 | 3,050 |
| 法人税等調整額 | 11 | △977 |
| 法人税等合計 | 3,062 | 2,073 |
| 中間純利益又は中間純損失(△) | 1,009 | △40,422 |
| 非支配株主に帰属する中間純利益 | — | — |
| 親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に 帰属する中間純損失(△) | 1,009 | △40,422 |

中間連結包括利益計算書

(単位：千円)

| | 前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) | 当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日) |
|-----------------|--|--|
| 中間純利益又は中間純損失(△) | 1,009 | △40,422 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 5,404 | 5,228 |
| その他の包括利益合計 | 5,404 | 5,228 |
| 中間包括利益 | 6,414 | △35,194 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る中間包括利益 | 6,414 | △35,194 |
| 非支配株主に係る中間包括利益 | — | — |

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

| | 前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) | 当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日) |
|---------------------------------|--|--|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 税金等調整前中間純利益 又は税金等調整前中間純損失(△) | 4,071 | △38,348 |
| 減価償却費 | 9,510 | 7,991 |
| のれん償却額 | 3,165 | — |
| 受取利息及び受取配当金 | △3,817 | △1,867 |
| 支払利息 | 5,427 | 5,236 |
| 為替差損益(△は益) | △6,813 | 2,363 |
| 補助金収入 | △7,578 | — |
| 売上債権の増減額(△は増加) | △25,322 | △1,174 |
| 棚卸資産の増減額(△は増加) | △6,040 | △12,559 |
| 仕入債務の増減額(△は減少) | 10,143 | △2,927 |
| 未払金の増減額(△は減少) | 6,499 | 651 |
| 前渡金の増減額(△は増加) | △7,624 | 19,126 |
| 仮払金の増減額(△は増加) | △788 | 9 |
| 未収入金の増減額(△は増加) | 1,620 | 1,280 |
| 未収消費税等の増減額(△は増加) | 1,105 | — |
| 未払消費税等の増減額(△は減少) | △15,047 | 17,754 |
| 未払法人税等(外形標準課税)の増減額(△は減少) | 178 | △5,573 |
| その他 | 2,989 | △1,839 |
| 小計 | △28,320 | △9,876 |
| 利息及び配当金の受取額 | 3,817 | 2,636 |
| 利息の支払額 | △5,217 | △6,003 |
| 法人税等の支払額 | △6,066 | △24,664 |
| 法人税等の還付額 | 1,629 | — |
| 補助金の受取額 | 7,578 | 500 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | △26,579 | △37,408 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 有形固定資産の取得による支出 | △4,118 | △4,575 |
| 無形固定資産の取得による支出 | — | △300 |
| その他 | △6 | 534 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △4,124 | △4,341 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | |
| 短期借入金の増減額(△は減少) | △20,000 | — |
| 長期借入れによる収入 | — | 10,000 |
| 長期借入金の返済による支出 | △87,904 | △13,116 |
| リース債務の返済による支出 | △524 | △524 |
| 新株予約権の行使による株式の発行による収入 | 49,928 | 111,295 |
| その他 | △116 | — |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △58,617 | 107,654 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 6,813 | △2,363 |
| 現金及び現金同等物の増減額(△は減少) | △82,508 | 63,540 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 286,577 | 216,102 |
| 現金及び現金同等物の中間期末残高 | 204,068 | 279,643 |

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当中間連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による中間連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を当中間連結会計期間の期首から適用しております。なお、当該会計方針の変更による影響はありません。

(中間連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲載されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

| | 前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日) | 当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日) |
|------------------|--|--|
| 現金及び預金 | 204,068千円 | 279,643千円 |
| 預入期間が3ヶ月を超える定期預金 | 一千円 | 一千円 |
| 現金及び現金同等物 | 204,068千円 | 279,643千円 |

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自2023年4月1日 至2023年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額並びに収益の分解情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | | その他 (注) 1 | 調整額 (注) 2 | 中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|---------------------------------|---------|--------------|-------------|-------------|---------|--------------|--------------|-------------------------------|
| | 紡績事業 | テキスタイル 事業 | ヘルスケア 事業 | リサイクル 事業 | 計 | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| アラミド | 144,958 | — | — | — | 144,958 | — | — | 144,958 |
| ポリテロン | 20,681 | — | — | — | 20,681 | — | — | 20,681 |
| その他紡績 | 28,241 | — | — | — | 28,241 | — | — | 28,241 |
| 衣料用生地 販売 | — | 258,176 | — | — | 258,176 | — | — | 258,176 |
| 不織布 マスク | — | — | 4,814 | — | 4,814 | — | — | 4,814 |
| その他衛生 関連製品 | — | — | 57,131 | — | 57,131 | — | — | 57,131 |
| プラスチッ クリサイク ル製品 | — | — | — | 114,408 | 114,408 | — | — | 114,408 |
| 顧客との契 約から生じ る収益 | 193,882 | 258,176 | 61,945 | 114,408 | 628,412 | — | — | 628,412 |
| 外部顧客へ の売上高 | 193,882 | 258,176 | 61,945 | 114,408 | 628,412 | — | — | 628,412 |
| セグメント 間の内部 売上高又は 振替高 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| セグメント 利益又は セグメント 損失(△) | 11,598 | 22,122 | 3,935 | 10,729 | 48,385 | △145 | △63,207 | △14,967 |

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、M&A等の仲介事業であります。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。
全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自2024年4月1日 至2024年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額並びに収益の分解情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | | その他 (注) 1 | 調整額 (注) 2 | 中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|---------------------------------|---------|--------------|-------------|-------------|---------|--------------|--------------|-------------------------------|
| | 紡績事業 | テキスタイル 事業 | ヘルスケア 事業 | リサイクル 事業 | 計 | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| アラミド | 169,971 | — | — | — | 169,971 | — | — | 169,971 |
| ポリテロン | 14,391 | — | — | — | 14,391 | — | — | 14,391 |
| その他紡績 | 16,686 | — | — | — | 16,686 | — | — | 16,686 |
| 衣料用生地 販売 | — | 393,504 | — | — | 393,504 | — | — | 393,504 |
| 不織布 マスク | — | — | 219 | — | 219 | — | — | 219 |
| その他衛生 関連製品 | — | — | 65,323 | — | 65,323 | — | — | 65,323 |
| プラスチック リサイクル 製品 | — | — | — | 108,562 | 108,562 | — | — | 108,562 |
| 顧客との契 約から生じ る収益 | 201,049 | 393,504 | 65,542 | 108,562 | 768,658 | — | — | 768,658 |
| 外部顧客へ の売上高 | 201,049 | 393,504 | 65,542 | 108,562 | 768,658 | — | — | 768,658 |
| セグメント 間の内部 売上高又は 振替高 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| セグメント 利益又は セグメント 損失(△) | 7,394 | 43,952 | △1,826 | △13,752 | 35,768 | △101 | △70,976 | △35,309 |

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、M&A等の仲介事業であります。
2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、前連結会計年度まで6期連続で営業損失を計上したことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

当社は、当該事象に対応すべく、以下の対応策を実施しております。

① 紡績事業及びテキスタイル事業の強化

紡績事業は、取引先との連携強化、研究開発の迅速化により高機能繊維の開発及び生産効率の改善をより一層図るとともに、利益率の向上を目指します。

テキスタイル事業は、グレード及び加工場の多様化による販売強化に取り組み、利益の最大化を図ります。

② ヘルスケア事業のポートフォリオ変更

ヘルスケア事業は、新規商材である防犯防災セキュリティ管理システムの販売強化、連結子会社である中部薬品工業を中核としたオーラルケア用品や健康補助食品の開発強化に取り組みます。

③ リサイクル事業の強化

リサイクル事業は、営業人材確保による原材料の仕入強化及び製造設備の拡充による取扱い可能品目の多様化によって事業を強化していき、売上と利益の拡大を図ります。

④ キャッシュ・フローの改善

運転資金面では、金融機関からの当座貸越契約により調達した資金を活用しているものの、新規設備や商品仕入の先行投資のため、営業活動及び投資活動によるキャッシュ・フローは継続してマイナスの状態にあります。引き続き、投資の早期収益化に努めてまいります。なお、2023年1月17日に第三者割当による新株及び新株予約権の発行を決議し、同年2月7日に発行価額の払込を受け、2023年8月から2024年7月にかけて全ての新株予約権が行使されており、今後の資金的余裕は担保しております。

これらの対応策を進めていくことにより、当第2四半期(中間期)連結会計期間末において継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。